

緊急開催、明日のエネルギー研修会

「いま、エネルギーを勉強する」

～在来型エネルギー、非在来型エネルギー、新エネルギーを勉強する～



大震災以降、エネルギーについての講演会が多く開催されているが、この際、基本に戻って、化石資源を利用する在来型・非在来型エネルギー、太陽光や太陽熱、風力、地熱など新エネルギーについて、長所・短所や、今後の見通しなどを、“ちゃんと”勉強しませんか？



日程:2011年6月30日(木)15:00～18:00

会場:東北大学 片平さくらホール 大会議室

仙台市青葉区片平2-1-1 仙台駅から南西へ約1km

入場無料 どなたでも参加できます

プログラム:

15:10～16:00

『低炭素社会における、化石資源の役割』

瀬川 幸一 先生（上智大学名誉教授、一般社団法人・日本化学連合常務理事）

16:10～17:00

『エネルギー・電力と仲良くする新しいライフスタイルに向けて』

松方 正彦 先生（早稲田大学先進理工学研究科教授）

17:00～17:50

『日本「再創造」－「プラチナ社会」の実現に向けて－』

小宮山 宏 先生（三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問）

主催：石油学会東北支部

共催：触媒学会東日本支部、化学工学会東北支部

後援：東北大学、東北大学多元物質科学研究所、日本化学会東北支部

原子力エネルギーの将来が不透明になる中、他のエネルギーを考える場合、エネルギーの多様化をより一層真剣に考え、進める必要がある。視野をどの程度長期的に見るかで議論の分かれるところであるが、各エネルギーについて基礎から応用まで学ぶことは議論以前の課題であろう。日本が直面する危機は、石油ショック以来の、2度目のエネルギーショックに当たり、まさに別の意味の「油断」であった。日本人がみんなそれぞれ全員が、自分が使う電力を含むエネルギー問題を再び真摯に考える機会を与えることを目的とする。

連絡先:

980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学多元物質科学研究所 村松 淳司

TEL 022-217-5163 FAX 022-217-5165

mura@tagen.tohoku.ac.jp



瀬川 幸一 先生（上智大学名誉教授，一般社団法人・日本化学連合常務理事）

『石油がわかれば世界が読める』（朝日新書）の編者として知られる。石油化学の第一線の研究者として活躍され、2006 年上智大学をご退官。その後も、学術雑誌 Applied Catalysis の編集者としてご活躍。また、南カルフォルニア大学特任教授を歴任。2011 年から現職。



松方 正彦 先生（早稲田大学先進理工学研究科教授）

この 4 月 18 日、日本記者クラブで会見・披露した、東京電力の夏のピーク時の電力不足や停電を回避する『「3.11 大震災」停電回避緊急提言』。それをまとめた化学工学会の研究者の中心として注目される。4 月 18 日には、「シンポジウム：東日本大震災に伴う電力不足対策に関する緊急提言—計画停電を最小限に食い止めるために—」を開催。2002 年から現職。



小宮山 宏 先生（三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問）

この 4 月 6 日、東日本大震災からの復興に向けた「日本の地域『新生』ビジョン」を発表。21 世紀の課題である「環境問題」と「高齢化問題」を世界に先駆けて解決しながら、人がいつまでも輝き続けられる新しいまちづくりモデル、プラチナモデルを提唱し、プラチナ社会研究会を主宰。2005 年東京大学総長（第 28 代）就任（2009 年 3 月退任）。2009 年三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問。JX ホールディングス取締役などを兼職。



公益社団法人・石油学会について

石油、天然ガス、石油化学工業およびこれらに係わる資源、エネルギー、環境分野に関する学術並びに技術の振興を図り、もって産業と文化の興隆に資し、社会の発展に寄与する。

1. 石油の探鉱、開発、生産、精製、石油化学その他関連する科学と技術の進歩、発展に寄与する。
2. 上記関連の産業界、官界、学界において活躍する科学者、技術者の知的交流と親睦の場を提供する。
3. 資源、エネルギー、環境など石油産業と密接な係わりを持つ国内の各種の学会、協会、団体と連携を保ち、相互の啓発と全体の発展のための活動を推進する。
4. 諸外国の学会、協会、団体と情報を交換するとともに、国際会議の開催に当たっては、科学的、技術的プログラムの編成などの専門的業務を担当する。